

議事録

日 時	令和5年1月24日（火） 10:00~12:00	
場 所	河内長野市役所 8階 802会議室	
議 題	第1回河内長野市未来技術地域実装協議会	
出席者	実装協議会委員	19名(内4名webにて出席)
	事務局(河内長野市政策企画課)	4名
資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 河内長野市 未来技術地域実装協議会 規約(案) ・資料2 未来技術社会実装事業概要 ・資料3 河内長野市未来技術社会実装事業の概要および事業計画 ・資料4 (参考資料) 河内長野市未来技術社会実装事業提案資料 	
議 事	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員就任予定者の紹介 <p>2. 案件</p> <p>(1) 協議会の規約(会長の選出等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規約(案)の説明【資料1】 規約(案)につき、修正等意見なしのため、規約として決議 ・規約第8条第2項に基づき、委員の過半数以上の出席による会議成立を確認 ・規約に基づき、互選により関西大学江川名誉教授を会長とする。 ・規約に基づき、会長の指名により大阪公立大学菅野教授を副会長とする。 <p>(2) 未来技術社会実装事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">未来技術社会実装事業概要の説明【資料2】</p> <p>(3) 河内長野市未来技術社会実装事業の概要および事業計画</p> <p style="padding-left: 20px;">河内長野市発表資料を用いて説明【資料3】</p> <p><質疑応答></p> <p>質問1:</p> <p style="padding-left: 20px;">手動によるオンデマンド運行についても同時並行で行われているかと思うため、補足説明をしてほしい。</p> <p>回答:</p> <p style="padding-left: 20px;">南花台地域においては、手動運転による地域住民主体でのドアツードアでの送迎が出来るオンデマンド運行も実施している。毎週月曜日と木曜日に週2回の有償運行をし、現在、月平均で百名以上の利用がある。</p> <p>意見:</p> <p style="padding-left: 20px;">地域課題の解決に向けて、デジタル技術がどのように有効活用できるかということを検討するうえで、自動・手動運行の両方をやっていくというところに、大きな特徴があると思うので、しっかりと進めていってほしい。</p>	

質問 2 :

大阪広域データ連携基盤（ORDEN）との連携を見据えながらとあるが、市独自の都市基盤導入を検討とも記載されている。具体的にどのような進め方をするのか。

回答 :

データ連携については、ORDEN の担当部局と密に連携をとりながら協議を進めている。

各サービスとデータ連携基盤との間で、実際にどこまでの情報提供・情報連携ができるのかが大きな課題である。

各サービスのデジタル技術活用を優先的に進めつつ、データ共有の課題検証やニーズ検証を洗い出し、調査・検討していきたいと考えている。

質問 3 :

遠隔診療について、居宅だけでなく、近くの施設を利用したサテライト診療が事業内の大きな特徴かと思う。サテライト診療の実現可能性についてはどのように考えているか。

回答 :

現時点でサテライト診療のハードルは高いと認識している。必要性・実現可能性についてもこれからの検証対象として考えている。

遠隔診療については、まずは、在宅診療に関わる遠隔診療の仕組み、体制づくりを優先的に実証し、関係各所と意見交換をしながら、進めていきたい。

意見 :

本当に河内長野市の遠隔診療は、自治体と医師会が連携しており、全国でも稀有な取り組みだと思う。先進的な取り組みなので、是非、続けていただきたい。

質問 4 :

地域通貨についての説明があったが、もう少し補足説明をしてほしい。

回答 :

モックルコインには種類があるが、プレミアム付きモックルコインについては 12 月末時点で約 5 万 5,000 枚の販売実績がある。令和 4 年度の地域通貨全体としては、約 8 億を超える流通がある。

質問 5 :

自動運転は地域通貨と生体認証とは、紐づけはないのか。生体認証を用いて自動運転の利用者数を取るなどは検討されていないか。

回答 :

生体認証と地域通貨との紐づけが実証事業の最終目標であるため、現状は、生体認証と地域通貨の連携を検討する段階であり、自動運転との連携はその先を予定している。

生体認証には様々な認証方法があるが、静脈は表にさらされていないため非常に安全性が高く、住民の抵抗感も低いと考えている。

この生体認証のあり方自体についても、委員の皆さんに意見を伺い、逐次、報告しながら、将来的には、指先だけで認証し、決済が完了するという将来像を目指していきたい。

意見 :

三田市が同じような事業でデータ管理をしているのでぜひ情報交換等をしてみてはどう

か。

質問6：

手動運転の方は有償でやっていると思うが、具体的にどの様に運行しているか。

回答：

現状は市町村運営有償運送という形をとっており、市の公金として運用している。

地域ボランティアが車両で利用料を管理するのは責任上の課題があり、スーパーに協力いただき、コノミヤで事前に乗車券を購入し、利用時に乗車券を渡す方法をとっている。

質問7：

KPIはどういった方針をもって設定したのか。

回答：単純なアウトプットは無い様にしている。

地域力と未来技術を融合することで豊かな生活を実装して、その場所で暮らし続けられるまちを作ることを最終目標とし、地域コミュニティや地域活動の活性化と、地域住民の健康状態、健康寿命の増進を数値化できる様なKPIとしている。

あわせて、開発団地の高齢化や人口減少の課題解決を目指し、社会増減率（数）を入れている。

意見：

KPIは、PDCAをまわしていく中で、単にやり方が悪いのではないかと見直すだけでなく、適切なKPIなのかという視点を持ちながらPDCAを回して、その実効性を高めていくということを意識していただきたい。

質問8：

レベル4を活用した自動運転の実証実験は、全国で実施されているが、上手くいっている所は、インフラをちゃんと出来ているところ。また、社会受容性、つまり住民の理解があるところだと理解している。

インフラや、社会受容性の面で何か検討しているものはあるか。

回答：

事前に手動運転で、自動運転する車両と同じ車両を用いて移動支援を実施することで、車両運行について周囲に認知度を広げた上で、自動運転運行を開始し、今年度全地域に拡げるといった形で、段階的に拡張することで、地域の意識醸成を図り、インフラの改修は必要無いと認識している。

実際に進めていく中で、インフラの改修が必要かどうかは検討していく。

意見：

今市で実施している自動運転は、インフラ改修が必須ではないが、現時点からインフラの視点も踏まえて実証し、必要な整備についても見えてくると思われる。

質問9：

自動運転の遠隔アシストについて、例えば、遠隔監視者が発信指令をして、ドライバーがブレーキを踏んだときは、どういう制御になるのか。

レベル2の自動運転では、必ず運転者も必要であり、その人の権限で運転することにな

るが、その指示が矛盾した時はかえって危険が無い。

回答：

国が規定しているレベル4で定義すると、遠隔操作が優先される。

その定義でいくと遠隔監視者の操作に優先されることになるが、実証事業期間中についてどの様に進めていくかは議論の余地がある。

基本的に運転手が乗っている状況では、操作は運転手を優先すべきと考えている。どちらに操作責任があるかを明確にした上で実証を進めていく。

質問10：

KPIの中で、地域内移動支援サービス利用者数増加を目指しているが、人口が減っていく中での利用者促進の取り組みの考え方、および住民主体での運行に関して、行政から見ても、地域住民のモチベーションがどこにあるかを聞きたい。

回答：

潜在利用者数はまだ一定数いると考えている。

また、移動支援が免許返納きっかけとなりうるというアンケート結果が出ており、今後免許返納者が安心して使えるのを作れば、おのずと利用者が増えていくと考えている。

地域住民も利用者促進に主体的に検討を進めており、通常運行以外に、地域のイベント時に臨時便を運行して日常利用につなげるなど、主体的に取り組んでもらっている。

意見：

この取り組みの成功を期待している。また、我々もいろいろ協力していきたい。

質問11：

移動支援の具体的な運行実績とボランティアの人数について報告をいただきたい。

回答：

現在、月に120人程度の利用がある。直近では8月に157名の利用があった。

また、地域ボランティア数は約60名、運転手が27名である。

意見：

既に大勢の方が担っている状況なので、これ以上ボランティアスタッフを増やすとバランスが難しいと思うが、運行継続性のためにも全体的に活性化していけばいいと思われる。

3. 閉会

以上